

7. 河川空間の利用状況

7.1 河川の利用状況

姫川下流部における河川利用者は、平成18年度河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果によると、年間推計利用者は約8万1千人となっており、前回調査（平成15年度）に比べ、約1万人の増加が見られる。

季節ごとの河川利用では、春季の休日と夏季の平日利用が多く、野球大会の実施や散策などが主な利用形態である。冬季は降雪などのため、利用者は少ない。

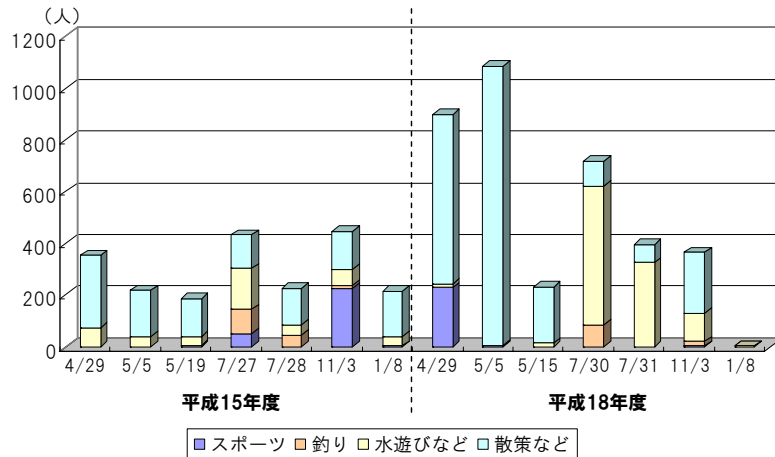


図 7-1 調査日ごとの利用状況

出典：各年度河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）報告書

表 7-1 年間利用者数の推計結果

単位：千人

区別 項目	利用者数 合計	利用目的別				利用場所別			
		スポーツ	釣り	水遊び等	散策等	水面	水際	高水敷	堤防
平成12年度	58.9	6.5	3.2	5.8	43.4	0.5	8.5	34.1	15.8
平成15年度	71.3	10.6	4.0	12.9	43.8	2.5	14.5	38.4	15.9
平成18年度	81.1	5.0	2.1	31.8	42.2	0.1	33.8	32.8	14.4

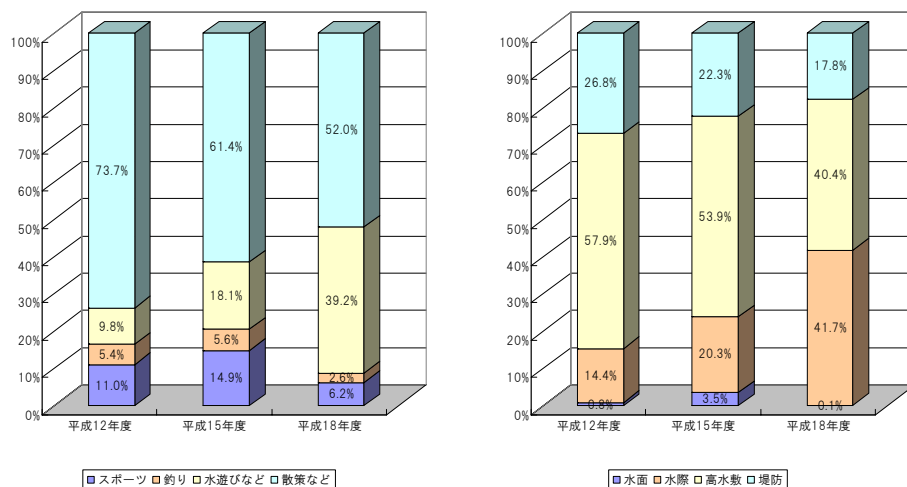


図 7-2 項目別年間利用者数

出典：各年度河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）報告書

7.2 区間別の主な利用状況

(1) 上・中流部

上流部では、姫川源流域の自然を生かした散策路が整備されており、散歩やハイキングが盛んである。中流部では、浦川が合流したあたりから河原は広くなり、所によっては500m以上にも及ぶ。

(2) 下流部

下流部は、主に、水遊び、散策などに年間約8万人が利用（H18調査）。近年は、水遊びに利用する人が増加している。糸魚川市寺島・大野地先には桜づつみが整備されており、開花時期には多くの地域住民が利用している。また、水辺では、近隣小学校の自然体験学習の場として利用がなされている。



姫川源流



小学生の自然体験学習



桜づつみ（糸魚川市寺島地先）

7.3 河川敷の利用状況

姫川は、急流河川のため侵食が激しく安定した高水敷は少ないものの、中流部の小谷村来馬河原や下流部において一部運動公園と耕地として利用されている。運動公園は、利用が多いため年々利用面積が増加している。糸魚川市寺島地先では、運動公園が整備されており、野球やサッカー大会が開催される。

また、水辺空間を活用した行事や魚釣りや水遊びの場として沿川の人々に親しまれている。

表 7-2 姫川の河川敷利用状況

(単位:千m²)

事務所	水系名	3号地													不明地	合計
		官有地					民有地									
		既利用地	未利用地			計	既利用地				未利用地 (荒地)	計				
			利用可能地		利用不可能地		内書き									
			そのまま 利用可能地	手を加えれば 利用可能地			宅地	田畑	運動場	その他						
高田	姫川	39	-	5	78	122	10	-	10	-	-	53	63	-	185	

平成18年4月30日現在



河川敷グラウンドでの野球大会



河川敷での遊び

写真 7-1 河川敷の利用状況（糸魚川市寺島地先）